

2013年度第2四半期 決算説明会

イオンフィナンシャルサービス株式会社

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確実要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。

経営成績及びセグメント別業績の前期比は、2013年4月1日～2013年9月30日と2012年2月21日～2012年8月20日を比較しております。

コンプライアンス・ガバナンス体制の強化

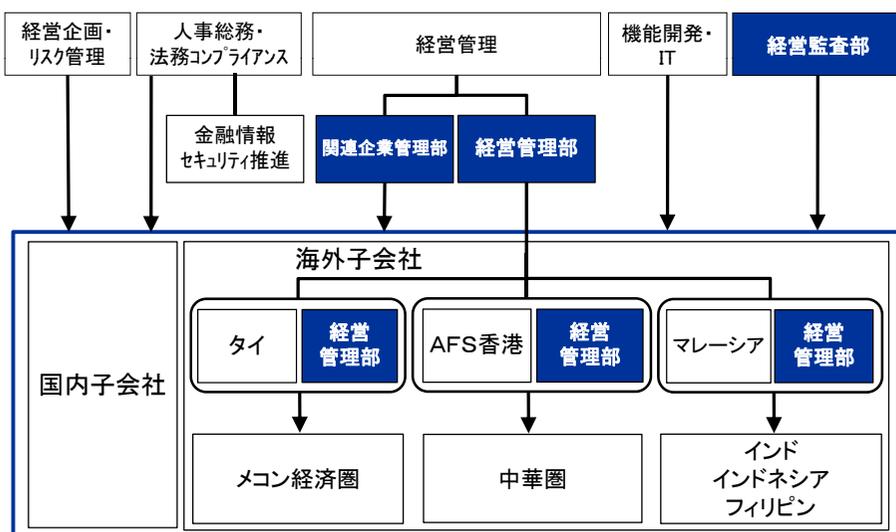
- 銀行持株会社として、ガバナンス体制の確立及びコンプライアンス意識を醸成
- 子会社を適切に管理・監督できる体制(人的・組織的・物理的・システムの)を整備

再発防止策(概要)

- (1) コンプライアンス重視の企業風土の醸成
- (2) 子会社に対するガバナンスの強化
- (3) 会計システムの見直し
- (4) 人事・組織体制の見直し
- (5) システム体制の強化

経営管理体制の強化

- 新たに経営管理部を設置し、国内及び海外子会社管理を強化



経営統合によるシナジーの状況

融資事業の 利便性向上	・世帯収入や、資産情報による与信判断 ・イオン銀行の資金調達機能の活用	国内キャッシング残高 期首比+559億円
マーケティング力の 強化	・資産情報を活用したイオンカード [®] セレクト化の推進	イオンカード [®] セレクト会員 期首比+32万人
海外事業の拡大	・経営管理体制の強化	現地のお客さまの 信頼を構築
営業力の強化と 生産性向上	・本社部門、事務センターを集約 ・営業部門へ人員シフトし、生産性を向上	事務所統合費用 4億円

経営成績(貸借対照表)

連結	実績	期首比	連結	実績	期首比
現金預け金	3,566億円	△1,609億円	預金	1兆6,783億円	+4,662億円
貸出金	1兆2,443億円	+1,163億円	有利子負債	5,827億円	△2,105億円
内、国内貸出金	1兆453億円	+953億円	借入金	5,149億円	△1,805億円
内、海外貸出金	1,990億円	+210億円	社債	622億円	△2億円
割賦売掛金	8,763億円	+3,690億円	転換社債	56億円	△244億円
支払承諾見返	1,863億円	+1,857億円	コマーシャル・ペーパー	—	△54億円
貸倒引当金	△467億円	△58億円	支払承諾	1,863億円	+1,857億円
内、国内貸倒引当金	△370億円	△45億円	買掛金等	2,374億円	△325億円
内、海外貸倒引当金	△97億円	△13億円	負債合計	2兆6,847億円	+4,089億円
有価証券等	3,537億円	△685億円	純資産合計	2,858億円	+269億円
資産合計	2兆9,705億円	+4,358億円	負債及び純資産合計	2兆9,705億円	+4,358億円

5

AEON Financial Service Co., Ltd.

2013年度第2四半期 決算説明会

経営成績(損益計算書)

連結	実績	前期比	連結	実績	前期比
経常収益	1,306億円	148%	経常費用	1,182億円	157%
国内ショッピング収益	376億円	114%	広告宣伝費	173億円	154%
国内キャッシング収益	174億円	110%	貸倒関連費用	142億円	132%
銀行業収益	201億円	(※1) (111%)	人件費	230億円	173%
フィービジネス収益	171億円	145%	管理費	393億円	163%
海外事業収益	433億円	150%	設備費	108億円	143%
個品割賦等	26億円	(※2) (114%)	一般費	28億円	120%
連結調整	△84億円	—	金融費用	106億円	178%
			経常利益	124億円	94%
			中間純利益	25億円	42%

(※1)銀行業収益の前期比はイオン銀行単体の前年度中間期業績と比較

(※2)個品割賦収益の前期比はイオンプロダクトファイナンスの前年度中間期業績と比較

AEON Financial Service Co., Ltd.

2013年度第2四半期 決算説明会

セグメント別業績

- ショッピング、キャッシングが順調に推移し、クレジット事業は増収増益
- イオン銀行の上期経常利益は35億円、通期経常利益は100億円を計画(単体)

	経常収益		経常利益	
		前期比		前期比
クレジット事業	575億円	119%	79億円	111%
フィービジネス	171億円	145%	6億円	57%
海外事業	433億円	150%	72億円	122%
銀行業	201億円	+201億円	7億円	+7億円
セグメント間消去等	△84億円	—	△41億円	—
連結業績	1,306億円	148%	124億円	96%

(経営数値は億円未満四捨五入)

7

AEON Financial Service Co., Ltd.

2013年度第2四半期 決算説明会

業容について

- 連結有効会員数は3,295万人(+110万人)、国内会員数は2,287万人(+63万人)
- 連結稼働会員数は1,864万人(+80万人)、国内稼働会員数は1,426万人(+54万人)
- 口座数は341万口座(+82万口座)、イオンカードセレクト会員数は227万人(+32万人)

	2013年3月期	2013年9月期	期首比
連結有効会員数	3,185万人	3,295万人	+110万人
国内会員数	2,224万人	2,287万人	+63万人
WAON発行枚数	3,180万人	3,590万人	+410万人
連結稼働会員数	1,784万人	1,864万人	+80万人
国内稼働会員数	1,372万人	1,426万人	+54万人
口座数	306万口座	341万口座	+35万口座
イオンカードセレクト	195万人	227万人	+32万人
国内営業拠点数	260拠点	320拠点	+60拠点
銀行店舗数	105店舗	115店舗	+10店舗
A T M 台数	2,680台	3,823台	+1,143台

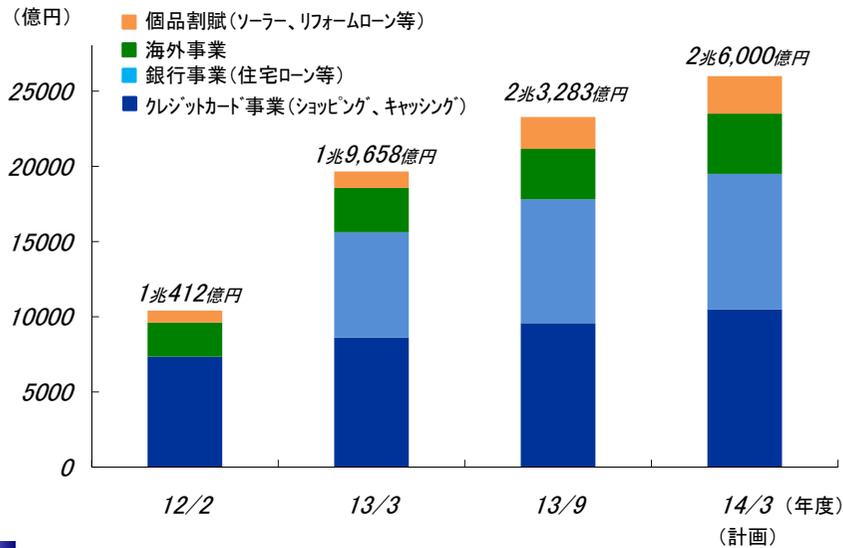
8

AEON Financial Service Co., Ltd.

2013年度第2四半期 決算説明会

営業債権残高(流動化前)の推移

■ クレジットカード及び住宅ローンの推進により、営業債権残高が増加



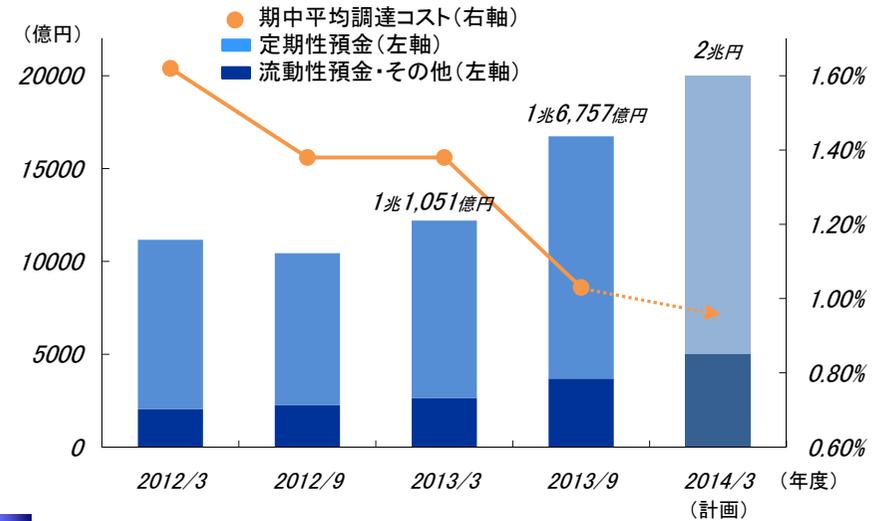
9

AEON Financial Service Co.,Ltd.

2013年度第2四半期 決算説明会

イオン銀行の預金及び資金調達コスト(国内)の推移

■ 定期預金キャンペーンの実施等により上期の預金残高は1兆6,783億円(期首比+4,662億円)
■ 預金調達機能の活用により期中の資金調達コストは1.03%(前期比△0.35%)



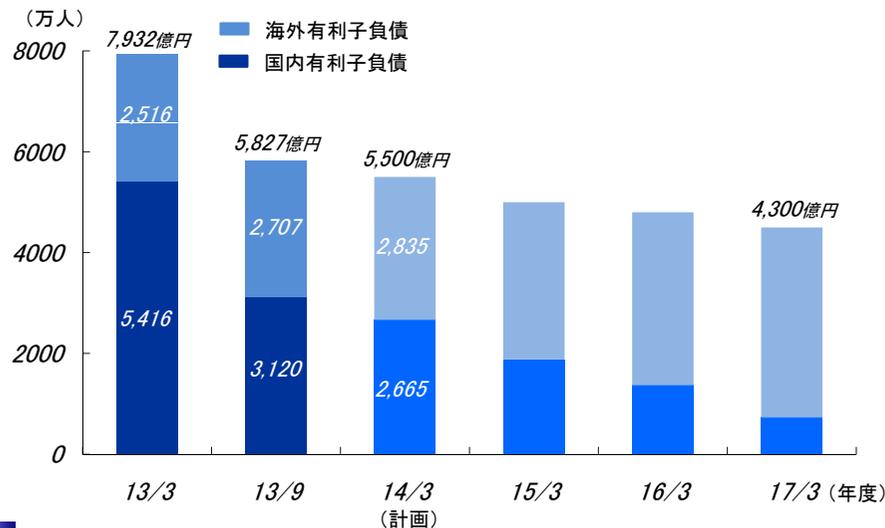
10

AEON Financial Service Co.,Ltd.

2013年度第2四半期 決算説明会

有利子負債の圧縮

■ イオン銀行預金へのシフト等により、上期有利子負債は5,827億円(期首比△2,105億円)
■ 通期有利子負債は5,500億円(期首比△2,432億円)を計画



11

AEON Financial Service Co.,Ltd.

2013年度第2四半期 決算説明会

貸倒引当金残高の推移(国内クレジットカード事業)

■ 上期の国内カード債権に対する貸倒引当金繰入額は47億円、引当金残高は251億円

	2012年度上期	2013年度上期		2013年度上期
期首貸倒引当金残高	314億円	264億円	個人破産	全額償却
貸倒引当金繰入額	34億円	47億円	延滞3カ月以上 法的整理債権	202億円
貸倒償却額 (移管債権等含む)	72億円	61億円	一般引当金 ※和解入金中を含む	49億円
期末貸倒引当金残高	275億円	251億円	合計	251億円

貸倒引当率	3.3%	2.6%
実質貸倒コスト	106億円	108億円

■ 貸倒引当金残高(国内子会社)
イオン銀行:31億円
イオンプロダクトファイナンス:59億円
イオン住宅ローンサービス:8億円

12

AEON Financial Service Co.,Ltd.

2013年度第2四半期 決算説明会

利息返還損失引当金残高の状況

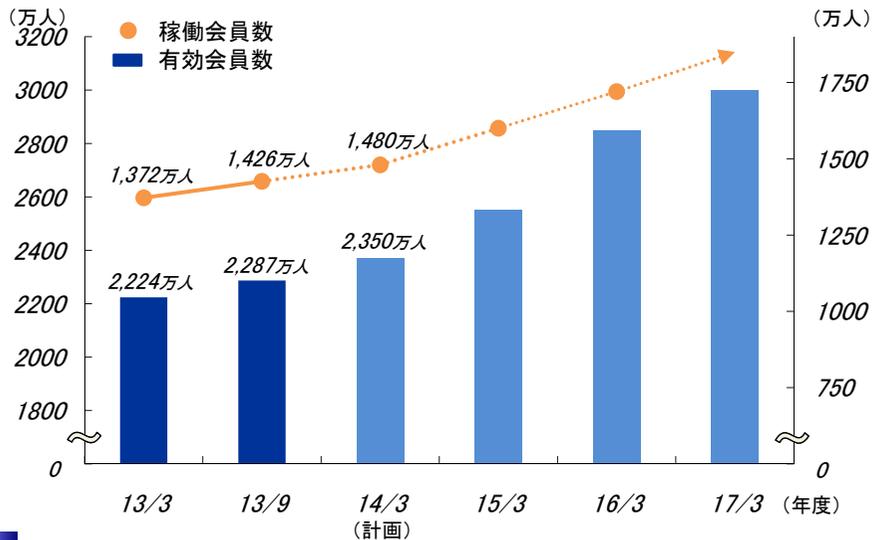
- 上期の開示請求件数は900件/月(前期比59%)、利息返還額は18億円(前期比72%)
- 下期の利息返還繰入額は開示請求件数の減少により10億円を見込む

	2012年度上期	2012年度下期	2013年度上期	2013年度下期 (見通し)
期首利息返還引当金残高	92億円	66億円	37億円	30億円
利息返還損失引当金繰入額	—	—	11億円	10億円
利息返還額 (キャッシュアウト額・元本充当額)	26億円	29億円	18億円	12億円
期末利息返還引当金残高	66億円	37億円	30億円	28億円

2013年度 下期重点実施事項

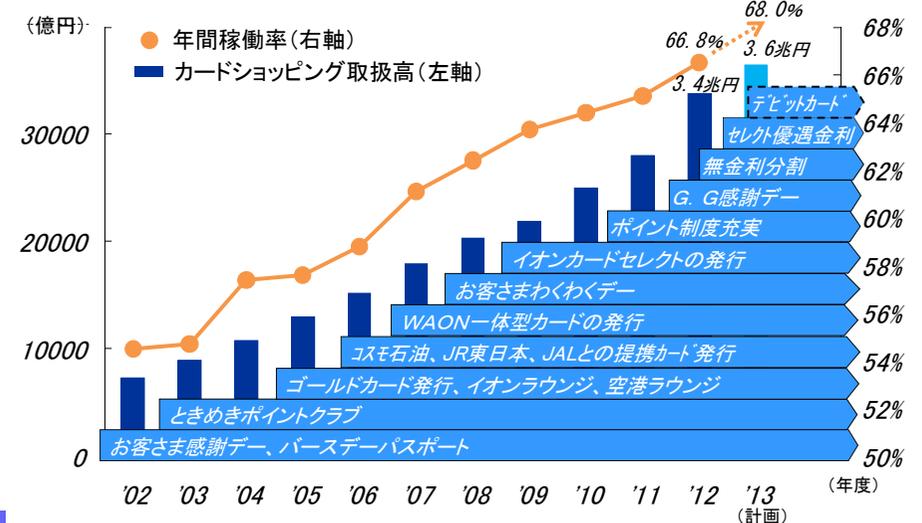
【クレジット事業】①国内会員数の拡大

- タブレット端末導入や、ネット募集強化により、有効会員数は2,350万人(期首比+126万人)
- 即時発行店舗の拡大などにより稼働会員数は1,480万人(期首比+108万人)



②年間稼働率向上への取り組み

- 稼働会員が順調に拡大し、上期取扱高は1兆6,847億円(前期比114%)
- イオンビットカードを来年1月より発行、通期取扱高は3兆6,000億円(前期比115%)、年間稼働率は68.0%(前期比+1.2%)を計画 (※取扱高前期比は同期間で集計)



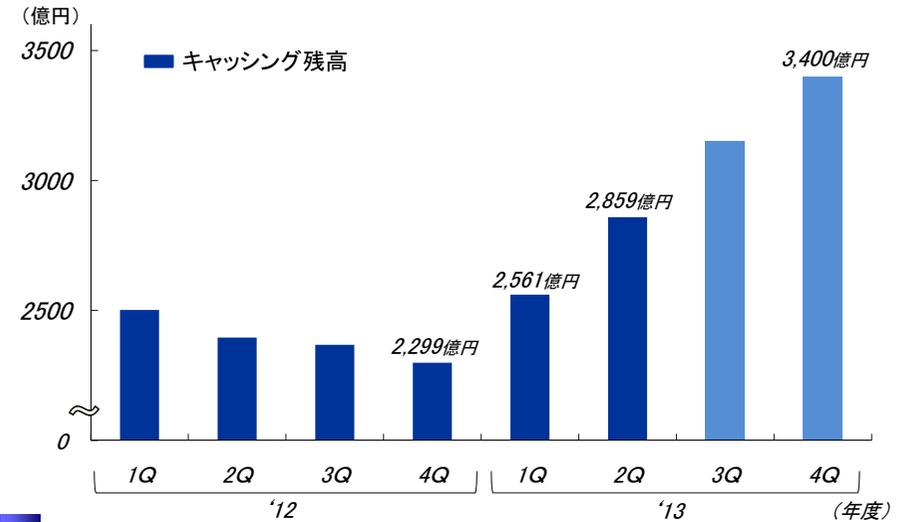
③取扱高拡大の取り組み

- 普通預金金利優遇、55歳以上限定の感謝デーなどの特典付与により利便性を向上
- 機能・特典の充実により、月間稼働率、月間利用額を拡大

	クレジットカード		
	イオンカード [®] セレクト	G.Gイオンカード [®] (55歳以上)	イオンカード
			
月間稼働率	55%	43%	39%
月間利用額	37,000円	34,000円	34,000円
特典	優遇金利 チャージポイント	毎月15日割引	
	20日・30日のお客さま感謝デー／5日・15日・25日のお客さまわくわくデー		

④キャッシング残高の拡大(国内)

- ATMネットワークの拡充により、上期末のキャッシング残高は2,859億円(期首比560億円増)
- 期末キャッシング残高は3,400億円(期首比1,101億円増)を計画



【フィービジネス】①電子マネー事業の拡大

- 高稼働の記名式WAONの推進し、上期取扱高は7,503億円(前期比132%)
- 新決済端末による加盟店開発の強化、ダイエーなどグループ企業へのWAON導入

重点実施事項

記名式WAONの拡大



加盟店開発の強化



<スマートフォン用決済端末>



②ネット事業の推進

- ネット加盟店開発の強化に取り組み、上期取扱高は1,175億円(前期比117%)
- イオンカード[®]セレクト切替のWeb完結申込みの開始、ときめきポイントでの決済機能を導入

重点実施事項

Webでの申込み機能強化

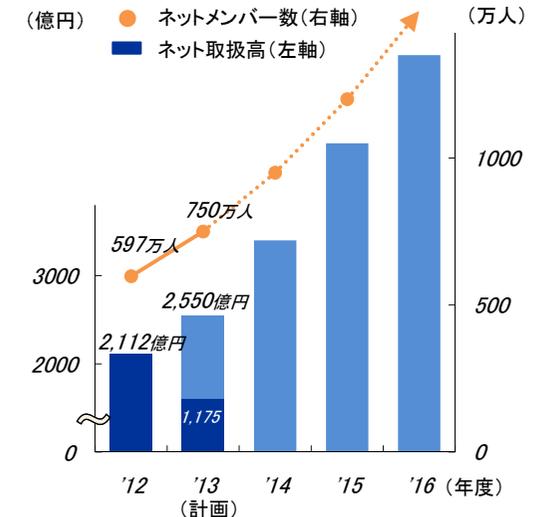


イオンカード[®]セレクト



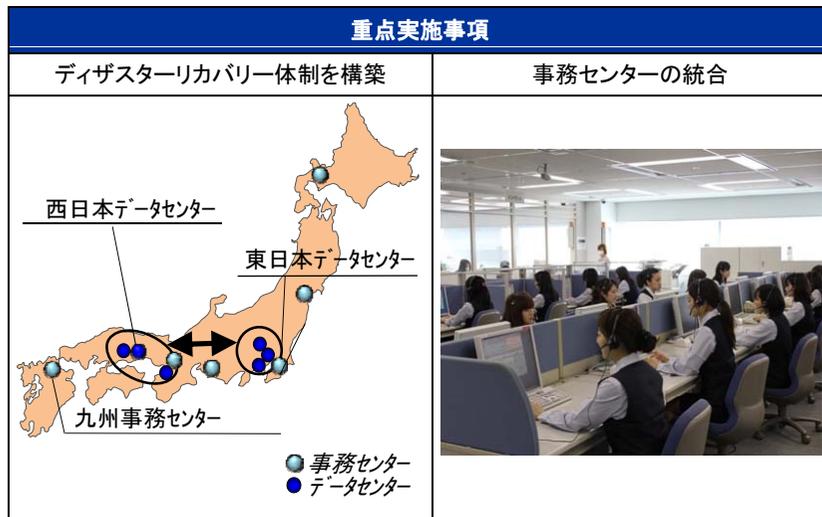
ポイント決済の開始





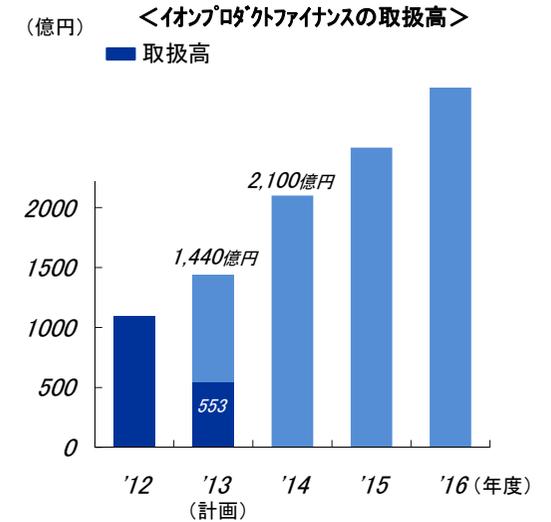
③ディザスタリカバリーの強化及び生産性向上の取り組み

- 東日本データセンターに加え、大規模災害を想定し、西日本にもデータセンターを開設
- 事務センター機能を統合し、ローコストオペレーションを実現



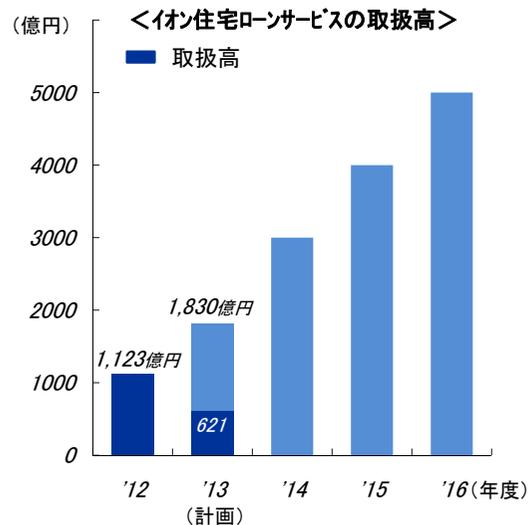
【国内子会社】個品割賦事業の強化

- リフォーム、ソーラーローンを推進し、取扱高は8月度122%、9月度125%と順調に推移
- イオン店舗内での事業開始、東芝スター(2,800店舗)との提携カード発行により業容を拡大



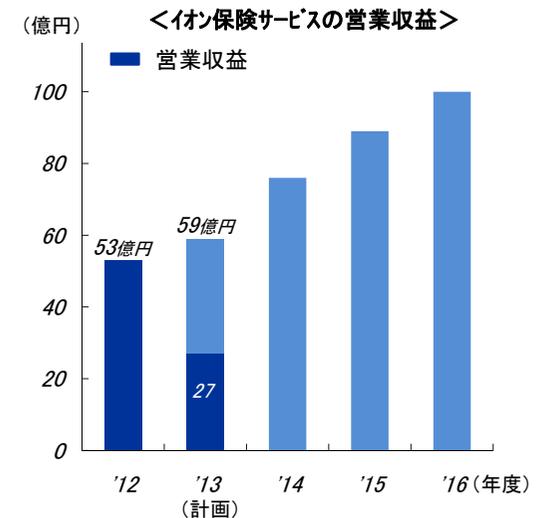
フラット35の取組み強化

- 主要提携先でのイオン銀行住宅ローン強化により、上期取扱高は621億円(前期比104%)
- 住宅ローンプラザの開設、Webでのフラット35借換推進により販売チャネルを拡大



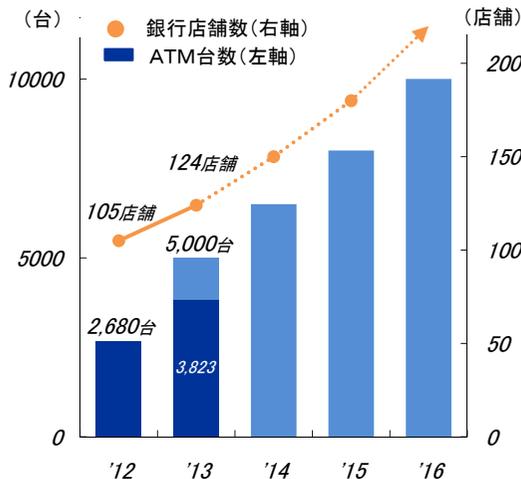
保険事業の強化

- 保険ショップは上期107店舗(期首比+17店舗)に拡大、期末116店舗(期首比+26店舗)を計画
- ネットと店舗の融合により、通期営業収益は59億円(前期比111%)を計画



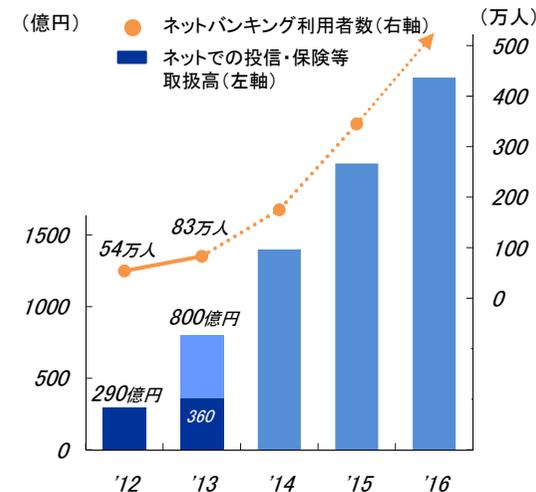
【銀行業】①営業ネットワーク拡充による銀行事業の強化

- ATM設置台数を5,000台(前期比+2,320台)、店舗数は124店舗(+19店舗増)を計画
- みずほ銀行とのATM無料提携を開始し、クーポン等の共同企画実施により利用件数を拡大



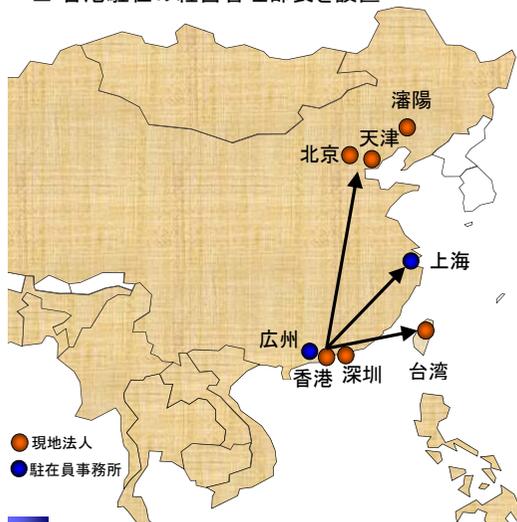
②ネットバンキングの強化

- 投資信託の取扱商品数を200商品に拡充し、上期取扱高は360億円(前期比240%)
- 住宅ローンでは、Webでお申込みのお客さまに、オムニチャネルでの対応を強化



香港を中心とした経営管理体制の強化

- 瀋陽、天津、深圳での営業基盤拡大による先行投資により、上期連結営業利益は、166百万香港ドル(前期比95%)
- 香港駐在の経営管理部長を設置



【イオンクレジットサービス(アジア)の業績】
(単位:万人)

	2013年度上期	
	実績	前期比
会員数	121	+5

	(単位:百万香港ドル、百万円)		
	実績	前期比	円換算
取扱高	4,118	112%	52,000
営業収益	591	101%	7,500
営業利益	166	95%	2,100
当期利益	133	93%	1,640

(1香港ドル=12.65円)

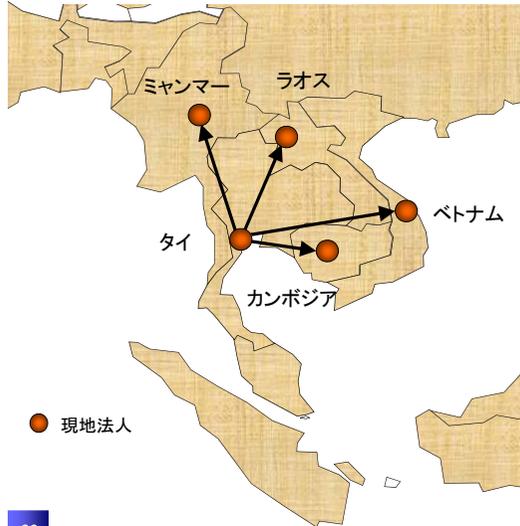
中華圏での事業展開

- 香港:提携先企業とのカード会員募集および共同企画実施により、上期取扱高は4,118百万香港ドル(前期比112%)、通期9,044百万香港ドル(前期比117%)を計画
ネット上でのバーチャルプリペイドカードの推進
- 中国:ハウスカードの会員募集を強化
プロセッシング事業における外部受託の推進
- 台湾:ガバナンス体制強化に加え、引続きカードをご利用いただくため資本増強を実施



タイを中心とした経営管理体制の強化

- 上期連結営業利益は1,567百万バーツ(前期比171%)と過去最高益を更新
- タイ駐在の経営管理部長を設置
- ベトナム、カンボジアに続き、ミャンマーでは営業基盤拡充により、黒字化を目指す



【イオンタナシンスアップ(タイランド)の業績】
(単位:万人)

	2013年度上期	
	実績	前期比
会員数	692	+ 23

(単位:百万バーツ、百万円)

	実績		円換算
	前期比		
取扱高	126%	46,030	149,000
営業収益	124%	7,265	23,500
営業利益	171%	1,567	5,050
当期利益	191%	1,253	4,050

(1タイバーツ=3.23円)

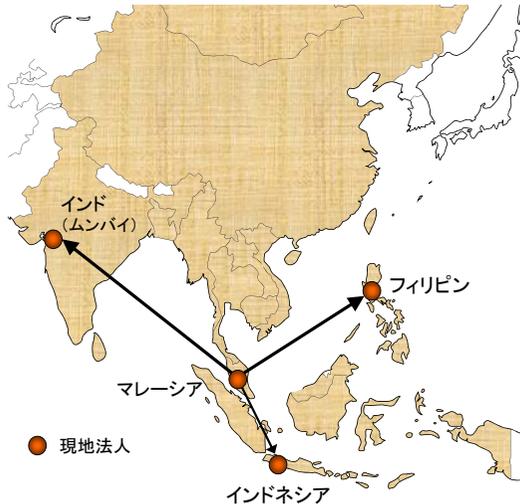
メコン経済圏での事業展開

- タイ : 加盟店との共同販促による会員募集強化と取扱高拡大
スマートフォン決済端末の展開による加盟店開発の強化
- ベトナム : 地方都市2ヶ所に支店を開設し、営業ネットワーク拡大
- カンボジア : 家電量販店等の加盟店開発を強化し、700店舗体制を構築
- ミャンマー : 携帯電話販売店等の加盟店開発を推進し、500店舗体制を構築



マレーシアを中心とした経営管理体制の強化

- 上期営業利益は113百万リンギット(前期比138%、35億円)
- マレーシア駐在の経営管理部長を設置
- 新興国における加盟店ネットワークの拡充



【イオンクレジットサービス(マレーシア)の業績】
(単位:万人)

	2013年度上期	
	実績	前期比
会員数	123	+ 10

(単位:百万リンギット、百万円)

	実績		円換算
	前期比		
取扱高	147%	1,655	51,700
営業収益	141%	325	10,160
営業利益	138%	113	3,540
当期利益	140%	84	2,640

(1リンギット=31.25円)

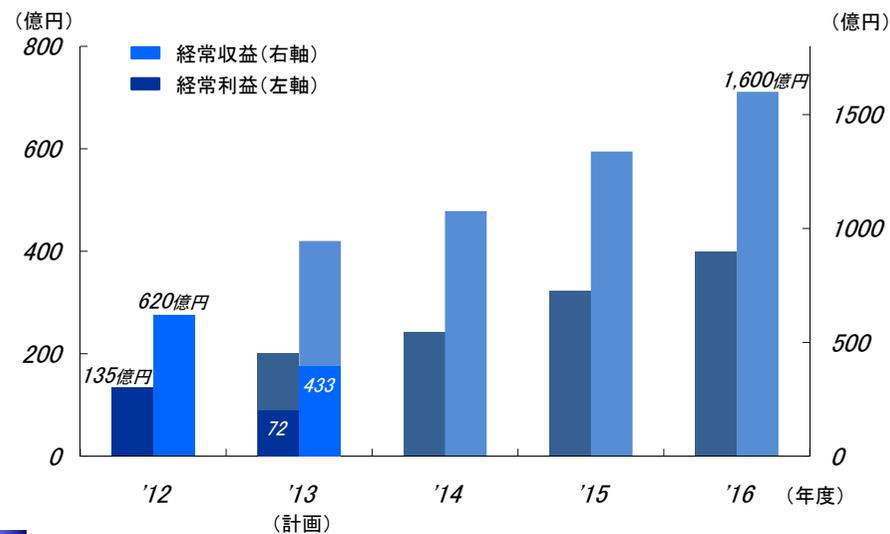
マレーシア及びアジア新興国での事業展開

- マレーシア : 日系企業初の永久債発行により、資本増強(約60億円)
イオンビッグとのポイント事業の開始
- インドネシア : 家電量販店等を中心に加盟店開発を強化
- インド : 人材育成の推進、営業ネットワークの拡充
- フィリピン : 海外共通システムの開発、ファイナンス事業では加盟店開発を強化



海外事業の業績推移

- 上期の経常収益は433億円(前期比150%)、経常利益は72億円(前期比122%)
- 経営管理体制の強化を図り、2016年は経常収益1,600億円を目指す



2013年度業績予想

- 上期は、ATMネットワークの拡充や経営統合キャンペーン等、先行投資を実施。
- 下期は、ショッピング、キャッシング及び住宅ローン残高の積み上げを図るとともに、ローコストオペレーションの徹底により、公表数値を達成

	2013年度 業績予想	
	2013年度	前期比
経常収益	2,650億円	129%
経常利益	440億円	132%
当期純利益	238億円	175%
1株当たり 当期純利益	116円39銭	132%

	第2四半期末	期末	年間
配当予想	25円	35円	60円